

## 令和2年度佐久地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 事業名           | 佐久織り環境整備事業                     |
| 事業主体<br>(連絡先) | ぼろ織りを伝えていこう岩村田宿の会 佐久市岩村田 775   |
| 事業区分          | 5 教育、文化の振興に関する事業               |
| 事業タイプ         | ソフト                            |
| 総事業費          | 1,157,200 円 (うち支援金: 925,000 円) |

### 事業内容

佐久で行われてきた養蚕やうちおりの歴史、佐久での裂き織り含め、形と技術を後世に残し、佐久市の活性化、人材の育成を実施

- ・ 29 台の機織り機のメンテナンスと欠品部品を取りそろえ、佐久地域での佐久織拠点へ織機を提供する事業 (6月から1月)
- ・ 織機技術保有の柴平忠春氏から若手宮大工へ技術伝承 (7月5日)
- ・ 経糸張り技術や裂き織り技術の望月多恵子氏と若手織子の育成 (7月5日)



### 【目標・ねらい】

- ① 機織り文化の継承
- ② 機織り技術の継承

### 事業効果

支援金を活用して機織り 29 台を修理し風越学園様、上田南小学校様 大日向小学校様 佐久大学様 内山機織り場等機織りの拠点を佐久地域全体に広げられた新たに5名が本会に加入し機織りの技術の活動を充実させられた

機織り技術を教えていただきたいとの問い合わせが8件あり佐久地域における機織り文化の継承機織り文化の広がりを実感している

※自己評価 【 A 】

### 【理由】

公民館の機織り教室の来場者2割増加  
機織り技術伝承 DVD 問い合わせ貸出 目標よりも3割増加  
学校に機織りサークルができた

### 今後の取り組み

- ・ 佐久織と言っていただけるような独自の織物の開発
- ・ 有形民俗文化財への取り組みを行う
- ・ 引き続き小学校 大学と連携を図り、機織りによるまちづくりの意識啓発と人材育成に取りくむ

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 創ろう！広げよう！佐久のハーモニー パート1(音楽で創る佐久のハーモニー)                        |
| 事業主体<br>(連絡先) | 創ろう！広げよう！佐久のハーモニー！実行委員会<br>(佐久市猿久保55 長野県佐久創造館内) 0267-68-2811 |
| 事業区分          | (3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業                                      |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 591,289円 (うち支援金: 443,000円)                                   |

### 事業内容

- リトミック  
小諸市立美南が丘小学校でのリトミック
- クリニック  
佐久市立白田中学校でのクリニック
- ワークショップ  
①小諸市美南が丘小学校での楽器(ドラムセット)に触れるワークショップ  
②佐久市立白田中学校での金管ワークショップ



【小諸市立美南が丘小学校でのワークショップ(リトミックと同時開催)】

### 【目標・ねらい】

- ①芸術文化に対する理解を深め裾野を広げる
- ②音楽活動を担う人材を育成する
- ③地域住民の理解を得ながら地域の文化力を発展させていく
- ④文化芸術の力を活かした地域づくりに取り組み地域の活性化に寄与する

### 事業効果

- リトミック  
リズムや身体も利用した音を体験し音楽の楽しさを体験できた。特に支援学級の児童方に音楽の楽しさを紹介できた。  
リトミック体験が2年目になる児童は今年の体験を踏まえて新たに加わったリトミックをとおして音楽の楽しさを体験した。
- クリニック  
自分の受け持ち楽器別の楽器演奏指導を受けた生徒の方々がより高い演奏体験を経験できた。
- ワークショップ  
中学校では、音楽の部活動には加わっていない生徒方が楽器に触れ、音の出し方などを体験し、併せてプロの演奏家の演奏を身近に聞いて音楽に親しみを感じることができた。  
小学校では、5・6年生がドラムセットをたたきリズムや音の強弱などの奏法を体験し、また模範演奏を楽しんだ。

※自己評価【 A 】

### 【理由】

リトミックやクリニック、ワークショップを実施したことにより、音楽の楽しさを体験しより高い音楽活動に触れることができた。

### 今後の取り組み

今年度の事業効果を踏まえて、3年間の事業の3年目として令和3年度事業を展開してまいります。具体的には、①音楽を担う人材育成のためのクリニック②音楽を楽しむリトミック、ワークショップ③日頃演奏会に来る機会の少ない方々への訪問演奏④商店街の活性化を目指す方々と共同した活動の実施⑤図書館の活用、美術館や文化財施設など多様な場所での音楽演奏などを実施し、佐久地域での音楽を通じた文化力の発展、住民の協力を得た地域づくりを行ってまいります。

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 創ろう！広げよう！佐久のハーモニー パート2(演劇で創る佐久のハーモニー)                        |
| 事業主体<br>(連絡先) | 創ろう！広げよう！佐久のハーモニー！実行委員会<br>(佐久市猿久保55 長野県佐久創造館内) 0267-68-2811 |
| 事業区分          | (3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業                                      |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 4,040,014円 (うち支援金: 3,030,000円)                               |

### 事業内容

- 文化財を活かした演劇活動  
佐久市有形文化財「旧大沢小学校」での演劇公演  
①8月9日、10日「教室の座敷童子」公演  
②10月10日、11日「父と暮せば」公演
- 人材育成講座の実施  
①演劇塾開設 12回(日)  
②演劇育成講座(小・中・高校生) 15回(日)  
③能楽育成講座(小学生) 11回(日)
- 「佐久のハーモニー演劇祭」  
11月28日 2公演、11月29日 4公演
- 能公演  
12月20日 1公演



【12/20 能の楽しみ公演】

### 【目標・ねらい】

- ①芸術文化に対する理解を深め裾野を広げる
- ②演劇活動を担う人材を育成する
- ③地域住民の理解を得ながら地域の文化力を発展させていく
- ④文化芸術の力を活かした地域づくりに取り組み地域の活性化に寄与する

### 事業効果

- ・佐久市有形文化財「旧大沢小学校」での2公演は公演に来られた方々と関係者に演劇を通じた文化財の価値の認識を高めることができました。
- ・人材育成講座は①大人対象の演劇講座、②小・中・高校生対象の演劇講座、③能楽育成講座、と多彩な取組を行い、演劇を身近に感じることが出来ました。
- ・演劇祭は地元劇団、高校生演劇、プロ俳優の指導を受けた演劇塾参加塾生公演を同一施設・場所で行い、多数の観客を集め、演劇による「地域の元気づくり」を創出しました。
- ・小学生育成講座員、大人の能楽講座生、能楽師15人が出演した能の本格的な公演は伝統文化の魅力を紹介できました。

### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

佐久市有形文化財の廃校を活かした公演、演劇塾の開設、地元の劇団、高校生演劇、プロ俳優劇団が参加した演劇祭、わが国最古の演劇「能」の公演など多様な活動を通して佐久地域の演劇活動が発展し、地域の活性化に結び付けられたこと

### 今後の取り組み

令和元年度、2年度の事業効果を踏まえて、3年間の事業の3年目として令和3年度事業を展開してまいります。具体的には、演劇を担う人材育成のため、①小・中・高校生の「演劇講座開設・公演」「能の講座開設・実演」②社会人の「演劇塾の継続的開設」「地元劇団の育成」を図っていきます。公演場所は文化財廃校、文化施設など多様な場所で佐久地域での演劇を通じた文化力の発展、住民の協力を得た地域づくりを行ってまいります。

### 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | 「跡部の踊り念仏」の保存・伝承事業   |
| 事業主体<br>(連絡先) | 跡部踊り念仏保存会<br>〒385-0054 佐久市跡部343-1 会長 廣岡 豊 電話 0267-63-0176 |
| 事業区分          | (3) 教育、文化の振興に関する事業  |
| 事業タイプ         | ソフト   |
| 総事業費          | 654,360円 (うち支援金: 514,000円)                                |

#### 事業内容

- 小学生向け教材「跡部の踊り念仏」(3頁)400部作成。「子供踊り念仏」の会で使用予定がコロナ対策で中止。
- 中学生向けの教材「跡部の踊り念仏」(5頁)100部作成し、野沢中学校の「体験学習」や授業などで活用した。
- 冊子『跡部の踊り念仏』改訂版1,500冊の作成。完了。広範囲の団体・個人へ寄贈。情報発信・元気づくりに貢献。
- 冊子改訂版を使い学習会を予定したが、コロナ対策で中止となった。



【「跡部の踊り念仏」学習】

#### 事業効果

##### ①保存活動の維持強化

野沢中学校の「体験学習」(ふるさと学習)は、10月8日に開催。参加した生徒の感想や学んだことが校内に掲示された。

また、野沢中学校3学年のクラスで「跡部の踊り念仏」を授業で取り上げ、伝承者、役員が出向き授業に参加した。教材65部使用(10月7日付け信濃毎日新聞に掲載)

##### ②伝承者の増員

太鼓部で1名の増員があり、引き続き努力したい。

##### ③冊子の作成とそれを使っての学習会は2回企画し、準備したが講師の入院や、コロナの影響で中止となった。

冊子は区内各戸(264戸)に配布した。文化財としての踊り念仏についての理解がされてきている。新たに居住した方も冊子を読み、この地で暮らせることを喜んでいる。

##### ④冊子の作成とその普及による連携と交流・支援の拡大。

冊子は跡部区内各戸の他、国の文化庁を始め、長野県や近隣市町村への寄贈。佐久市・市教育委員会、市文化振興課などの公的機関はもとより、市内の小・中・高等学校・図書館・歴史資料館・美術館に寄贈した。近隣の多くは直接訪問してお渡しできた。

#### 【目標・ねらい】

##### ①保存活動の維持強化

地元における「跡部の踊り念仏」の理解と支援の広がりを目指す。

##### ②伝承者の増員

伝承者20%増員を目指す。

##### ③地域の文化財としての認知度の向上。

##### ④冊子『跡部の踊り念仏』改訂版の作成と普及による連携と交流支援の拡大。

#### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

小学生向け教材、中学生向け教材を作成。中学生向けの教材は野沢中学校の「体験教室」で活用した。

冊子改訂版は1,500冊作成し、当初の予定範囲に配布贈呈をほぼ終了。一定認知がはかれた。

学習会は2回中止となった。

伝承者の増員は1名でした。

#### 今後の取り組み

- 今年度中止した4月の「跡部の踊り念仏」定例公演を来期はコロナ対策をした形で実施したい。
- 第11回「子供踊り念仏」を開催し、小学生の練習や学習会、保護者との交流を深めていく。
- 今年度できなかった「跡部の踊り念仏」についての学習会を開催し、伝承者の増員をはかる。
- コロナの収束とともに、「跡部の踊り念仏」に関心を持つ公民館活動、大学、大学院などの研修会が活発化すると思われるが、冊子を活用し「跡部の踊り念仏」の存在を社会に周知していきたい。また、風流グループとの交流に冊子を活用し、ユネスコ遺産登録への動きにも対応していきたい。

### 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | こどものファンタジーでまちをワクワクに！プロジェクト<br>かぜのはらに 本の森をつくろう！              |
| 事業主体<br>(連絡先) | こどもヘンテコまほうラボ<br>(住所：長野県北佐久郡軽井沢町長倉1533-9<br>電話：0267-45-7746) |
| 事業区分          | 3 教育、文化の振興に関する事業  |
| 事業タイプ         | ソフト   |
| 総事業費          | 446,519円 (うち支援金：334,000円)                                   |

#### 事業内容

こどものファンタジーでまちをワクワクに！  
プロジェクト かぜのはらに 本の森をつくろう！  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた対面ワークショップ（1.プレワークショップ「まほうアイテムをつくろう！」、2.かぜのはらで、お話絵本をつくろう！ワークショップ、3.かぜのはらに、本の森をつくろう！木工ワークショップ）から非対面通信型の内容へ変更。

(概要) 通信型で参加者にミッションを送り、ワークシートを各自作成して返送してもらう。7回のミッション送付。6回ワークシートを返送してもらう。  
小諸市、佐久市、北佐久郡、南佐久郡をフィールドに、こども達が自分の身の回りの自然地を探索し、各自が自然の美しさや不思議を感じる「とっておきの場所」を探す。  
各自が見つけた「とっておきの場所」の自然から「ワクワクを生み出す魔法」を想像して他者に発信するための「魔法紹介」説明シートを作成する。  
参加者の「魔法紹介」を、『佐久地域 みんなの魔法マップ』（A3両面印刷）に編集して、小諸市、佐久市、北佐久郡、南佐久郡の小学生（1～6年生予定）に配布する。  
募集する参加者は、小学1～6年生。定員15名。

6月初旬 参加者募集チラシ製作

6月中旬から下旬 参加者募集チラシ配布、参加受付

7月28日 通信1号発送 ミッション1 「身の回りの自然の中から気になるものを見つけよう」

9月3日 通信2号発送：ミッション2「身の回りの自然の気になるものからどんなまほうが生まれそう？まほうを想像しよう」

#### 【目標・ねらい】

1. こども達が自分の地域の自然と関わって遊ぶなどの活動をする機会が少なくなっていると感じる。また、こども達の自然体験の減少を報告している様々な調査を目にする。  
こども達が、自分の地域にある自然と関わり、遊び、活動する機会をつくりたい。
2. ゲームなどの娯楽が手軽に楽しめるようになった一方、こども達（大人も含めて）が身の回りにあるもので遊びや楽しみを自らつくり出す機会が減ってきていると感じる。  
こども達が、自分の地域にある自然地で、自発的に自分の想像力、創造力を発揮して遊びや楽しみをつくり出すことに挑戦していける場をつくりたい。
3. 地域の資源に対して、大人もこどもも生活を通しての関係性が少なくなっていると感じる。  
地域の自然地を題材として、こども達が創ったファンタジーを発信することで、こどもから大人まで沢山人達に、自然地に存在する生き物や物などの資源に対して興味を持ってもらいたい。こども達の創るファンタジーで、地域資源に対してのワクワクを生み出したい。



(別記様式第12号) (第3の8関係)

10月4日 通信3号発送: ミッション3「身の回りの自然のものを観察して、なりきり絵日記を書こう」

11月2日 通信4号発送: ミッション4「まほうのカケラ図鑑づくり、身の回りの自然の気になるものの特徴ごとに探して記録しよう」

12月6日 通信5号発送: ミッション5「身の回りの自然の困っているもの図鑑づくり、困っているものを探して記録しよう」

R3年

1月18日 通信6号発送: ミッション6「まほうづくり、まほう紹介シート」

3月12日 通信7号発送: みんなのまほう紹介、アンケート送付

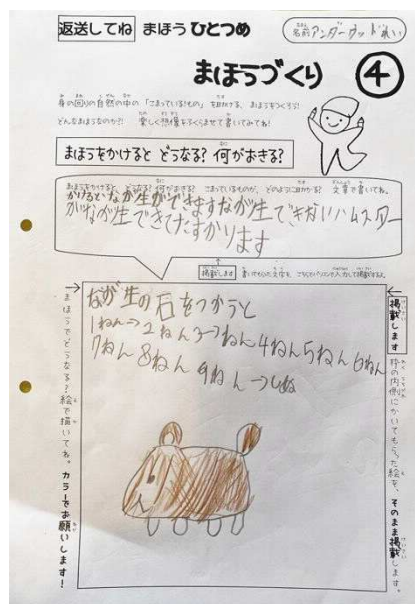
3月10日「みんなの魔法マップ」(A3両面、「魔法紹介シート」が閲覧できるQRコード掲載。)作成、印刷。3月初旬「みんなの魔法マップ」を、小諸市、佐久市、北佐久郡、南佐久郡の小学生(1~6年生予定)に配布。10500部。

3月に予定していた、参加者が集まり、各自の「魔法紹介シート」を紹介し合う、成果発表会は、2月に新型コロナウイルス感染症の変異種感染者が長野県内で出た為、軽井沢町主催のイベントが中止になったのに準じて開催中止を決めました。通信7号で、みんなのまほう紹介を行い、アンケートも郵送しました。

○目標に対して振り返り

コロナ感染症対策で、非対面で参加者が各自の身の回りの自然を題材に想像力を働かせてファンタジーを創作する内容へ変更した。

目標3については、参加者が身の回りの自然のものを題材に想像した「まほう」を、佐久広域の小学生へ「みんなのまほうまっぷ」「みんなのまほうWEB図鑑」で発信することで、興味を持ってもらうきっかけを作れた。目標1、2については、郵送通信型でワークシートのやりとりのみで、「みんなのまほうまっぷ」「みんなのまほうWEB図鑑」に向けて進めていく為、書面化に力を入れる内容になった。ゆったりとした遊び体験を取り入れてもよかったと反省している。



ワークシート



みんなのまほうマップ

(別記様式第12号) (第3の8関係)

○次年度に向けて

今年度の反省を踏まえて、身の回りの自然に対して、手を動かして触れる時間を楽しむ内容を計画している。ファンタジーは、こども達のオリジナル絵の具を通して、こども達が想像することを、アウトプットしたい。年間の地球絵の具づくりでできた絵の具をパンフレット(佐久地域の小学生に配布)にまとめる。WEBサイトでは、こども達がつくった全ての絵の具を紹介し、より多くの人に見てもらいたい。

「今後の取り組み」に計画している概要を記載しました。ご参照ください。

今年度と同様の3つの目標に向けて、活動したい。



みんなのまほう WEB 図鑑

## 事業効果

こども達が生活している近所の自然地で、こども達が遊び、物語を創造する活動を通して、こども達が、自然と向き合い、今まで気がつかなかった身の回りのものの良さに気が付く機会を、郵送通信型ワークショップで作った。

参加者15名。

参加者が創作したまほうと創作方法の説明を、学校配布の「みんなのまほうマップ」「みんなのまほうWEB図鑑」により、佐久地域の1～6年生全児童(10,500部)に配布した。

## ※自己評価【B】

### 【理由】

コロナ感染症の為、当初予定していた対面式の活動は実施できなかったが、非対面の郵送通信型で子ども達の身の回りの自然に対する想像力を使った創作の機会を作ることができた。

学校配布の「みんなのまほうマップ」「みんなのまほうWEB図鑑」により、佐久地域の小学生に身の回りの自然に対して想像力を使うことへ興味を促した。

## 今後の取り組み

来年度に、佐久広域の小学生を対象とした、身の回りの自然素材から絵の具を作るワークショップ、その絵の具を使って長野県産木材を彩色・工作するワークショップを、春夏秋冬4シーズン行うことを予定している。こども達が身の回りの自然と関わり楽しむ機会を作っていきたい。

1.ワークショップ「地球絵の具づくり～身の回りの自然素材を絵の具にしよう!～」春・夏・秋・冬 計4回実施

身の回りの自然素材から絵の具つくる工作ワークショップ。

会場：軽井沢発地市庭の会議室、佐久平交流センター

開催日(予定)：春の回 5/30(日)、夏の回 8/5(木)、秋の回 10/31(日)、1/7(金)

開催時間：各回10時～12時

参加費：500円(絵の具制作材料、ワークシート代込み)

対象：佐久地域の小学生 定員：10名

講師：なおやマン(こどもヘンテコまほうラボ。佐久市子ども未来館館長)、しま：アイ(こどもヘンテコまほうラボ)

概要：絵の具にしたい自然素材を、事前に自分の家の近くで採取してきてもらい、会場で絵の具づくりを行う。自然素材から生まれた絵の具が、どんな色か?こども達の想像力を働かせて、名前をつけたり絵の具の使い方を想像して考えてもらう。

事前に、自然素材の集め方についての説明と、素材を乾燥する為の材料を、各参加者に郵送で配布。

→ワークショップで地球絵の具づくりを行う。

→年間計8回の地球絵の具づくりでできた絵の具をパンフレット(佐久地域の小学生に配布)にまとめる。WEBサイトでは、こども達がつくった全ての絵の具を紹介し、より多くの人に見てもらう。

2. オンラインワークショップ「地球絵の具づくり～身の回りの自然素材を絵の具にしよう!～」春・夏・秋・冬 計4回実施

身の回りの自然素材から絵の具つくる工作ワークショップ。自然素材から生まれた絵の具が、どんな色か?こども達の想像力を働かせて、名前をつけたり絵の具の使い方を想像して考えてもらう。



### 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 若い世代へソバ打の継承と食文化の復権と拡大事業  |
| 事業主体<br>(連絡先) | まちづくり協議会みよた<br>柳澤 良幸   |
| 事業区分          | (1) 地域共同の推進に関する事業<br>(3) 教育、文化の振興に関する事業<br>(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 1,315,284 円 (うち支援金: 1,052,000 円)                               |

#### 事業内容

- 令和2年11月23日「新ソバ謝恩試食会」を行った。  
参加者55人 御代田町旧人権啓発センター
- 令和3年2月20日子供食堂にてソバ打教室を開催した。  
参加者22人

#### 事業効果

- 地元のソバのブランド化を図るのが目的であったが、栽培条件の内、地理的要因、施肥による違い、製粉の方法によりどのような変化が出るか、また、個人個人の嗜好の違いで風味、食味に違いが出るか参加者で、同時に吟味する良い機会であった。結果として、参加者の多くが4箇所で穫れたソバを同時に味わうという機会は無かったが、試食の結果、どれも風味があり新ソバ特有の風味を堪能できたが、同じ地域で取れたソバがこんなに味が違うものかとの意見が多く、大変好評であった。
- 6名の子供と一緒に参加したお母さん方も一緒に体験し、ソバを打てる事で原料が直接食べ物となり、食の安全、安心できる食生活を意識できるようになったことで、アフターコロナに求められる新たな生活への対応を足元からできるという啓蒙を行った。

#### 今後の取り組み

- 今後町内における生産者同士で収穫された新ソバを持ち寄り、食味会を催し町内のソバのブランド化を推進するため栽培方法に関する知識を共有し合い、技能を高めてゆく。参加された町長からもこの企画がすばらしいので、町も協力し機会を作るので、実施してくださいとのことであった。
- 今後ソバ打教室を開催するときも子供食堂からの参加者を募るためPRができた。今後ソバ教室において、ソバ打の技能だけでなく、アフターコロナに向けた新たな生活習慣の創造に、そばを打てることで自ら作っていくことができることを啓蒙する。



#### 【目標・ねらい】

- ① 地域共同の推進
- ② ソバ打の継承、食文化の復権
- ③ 教育文化の振興

#### ※自己評価【B】

【理由】  
別記記載

**【理由】**

自己評価を「B」とする。

御代田町からの呼びかけに町の初めての企画である「ふるさと納税住民活用応募事業」に応え参加した。例年600人以上参加して行う当協議会の恒例事業である「新ソバ交流会」は令和2年度は中止する事が8月の例会で決定されておりましたが、代わりに本年は少人数で「謝恩試食会」を開催した。以下の点に留意した。

1. コロナウイルス感染の防止対策を長野県が定める指針に従って徹底した上で、例年来て頂いている方がたから30名に絞り、ボランティア10人、スタッフ15人、総勢55名で、受付にて検温、アルコール消毒を行い、密にならないよう席を配置した。
2. 例年は、参加人数が多いのでできなかった試みとして当地域の4箇所まで栽培して、製粉も異なるそば粉を使い、それぞれ風味、食味に違いがあるものか食べ比べをして頂く形で参加者に賞味頂いた。地元のソバのブランド化に向け参加者各人の意見を集約した。
3. 長野県地域発元気づくり支援金応募の際は行政にご協力頂いたので、支援金活用により揃えることができたソバ打セットの披露をした。

このような催しは県内のソバイベントにもあまりなく、参加者全員から初めての経験で、とても素晴らしかったとのことで、毎年続けて頂きたいとの意見が多かった。

また、子供食堂へのボランティア活動として、子ども達と一緒にソバ打をして参加者全員で食事会をした。ここ数年子ども達と年に2、3回行っているの上達している子もおり将来が楽しみである。又、子ども達がソバ打教室に参加するようPRができた。地元の材料を使ったソバを時々打って、それを食す事で身近に優れた食文化があることを意識でき郷土愛を育む事ができる。また、原料のそば粉がどのように育てられたのか聞くことで地元の風土や豊かな自然を感じることで同様に郷土愛に繋がる。

これらの実施した事業自体はいずれも自己評価「A」でも良いと言えるが、コロナ感染の5月における第一波、8月の第二波、12月の第三波による集合自粛、公共施設利用の自粛要請の影響で控えざるを得なかった結果、計画事業の大幅縮小により、自己評価を「B」としました。

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | 地域を支えるLPガス 保安・防災体験出前教室                            |
| 事業主体<br>(連絡先) | 長野LP協会佐久支部<br>(佐久市跡部65-1 佐久地域振興局内 電話0267-63-3450) |
| 事業区分          | (4) 安全・安心な地域づくりに関する事業                             |
| 事業タイプ         | ソフト・ハード   |
| 総事業費          | 1,183,338円 (うち支援金913,000円)                        |

### 事業内容

- LPガス災害対応機器の紹介と使用方法を記載したチラシの作成 500部作成
- 保安・防災体験教室の実施  
令和2年8月2日(日)  
佐久市野沢公民館 親子7組参加  
【LPガスの基礎知識】  
【災害対応機器の活用体験】  
【アンケートの実施】
- 地元情報誌『週刊さくいだいら』復興特集記事への掲載  
令和2年10月8日(木)掲載



【上：LPガスの基礎知識】

【下：LPガス発電機始動体験】

### 事業効果

- LPガス災害対応機器紹介チラシの作成し、出前教室参加者に配布し、その内容を周知できた。
- 保安・防災体験教室の実施によりLPガスの特性及びその活用方法を理解してもらうことにより、災害時にLPガスを有効利用することの理解を深め、防災に対する知識を深めてもらうことができた。その後のアンケートでもLPガスが災害時有効であることへの理解度が高まった結果となった。
- 台風19号からの復興特集『週刊さくいだいら』に災害対応機器の紹介と取材記事を掲載することにより、広域的にLPガス災害対応機器の活用並びに災害時での有用性を周知できた。

#### 【目標・ねらい】

- 災害対応機器の周知
- LPガスの特性への理解
- 災害時での有効利用への認知度アップによる地域防災力の向上

#### ※自己評価【B】

##### 【理由】

保安・防災体験出前教室がコロナ禍により当初予定していた回数の20%の実施となってしまったが地元情報誌にLPガス災害対応機器の紹介及び災害時での有効活用を周知でき、地域の防災力の向上に繋がった。

### 今後の取り組み

各自治体の教育委員会と相談をしながら、来年度の保安・防災出前教室を広域的に実施していく予定。

また、各市町村へ寄贈したLPガス災害対応機器の使用方法を、防災訓練等あらゆる機会を捉えて災害時の有効活用に向けて地域住民や各自治体の担当者に習得してもらえるよう活動を積極的に推し進め、地域防災力向上に繋げていきたい。

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 事業名           | 常和を元気にする復興まちづくり事業            |
| 事業主体<br>(連絡先) | 佐久市 常和区<br>(佐久市常和 1728)      |
| 事業区分          | (4) 安全・安心な地域づくり              |
| 事業タイプ         | ソフト・ハード                      |
| 総事業費          | 872,771 円 (うち支援金: 690,000 円) |

### 事業内容

佐久市常和区では、台風 19 号により住宅の損壊、浸水被害、農地への土砂流入、山林の崩壊など過去に例のない大きな災害が発生した。

安心・安全に暮らし続けることのできる地域をつくるため、住民が主体となって**地域防災力の向上やコミュニティの再生**に取り組む。

1. 広報・災害伝承活動  
復興まちづくりだよりの発行: 6 回
2. 避難体制の強化  
自主避難基準の作成、防災リーダーの育成
3. 復興拠点の整備  
つつじ公園、サクラソウ群生地の整備



【協働で防災マップづくり】



復興大根祭り  
ボランティアに感謝

### 事業効果

- ① 定期的にまちづくり活動の状況を全区民や関係機関、マスコミなどに情報発信することができた。
- ② 地域独自の取組みとして、雨量、河川水位を指標とした自主避難基準の策定や、近隣企業と一時避難所に関する協定を締結するなど避難体制の強化を図ることができた。
- ③ 多くの区民の参加により復興拠点となるつつじ公園の拡張やボランティアへのお礼イベントを開催し、新たなコミュニティも生むことができた。

### 【目標・ねらい】

- ① 住民への情報提供
- ② 自主防災組織の体制強化
- ③ 地域コミュニティの活性化

### ※自己評価【 A 】

#### 【理由】

- ・防災・減災への独自の取組みが計画以上に進んだ。
- ・復興拠点に多くの参加者が集い、新たなイベント開催につながった。

### 今後の取り組み

災害復旧工事が行われる約4年間において、地域の防災力を向上させるために防災リーダーの育成による自主防災組織の強化や地域独自の避難体制の構築に向け、活動を継続していく。

また、地形的な特性から将来同様な災害が発生するおそれがあるため、気象データや災害当時の様子などを世代へ伝承するための取組み(復興誌の編集)を進める。

楽しみながらまちづくり活動を続けていくために、復興拠点に多くの人が集り、喜んでもらえるようなイベントも行っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



### 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 入沢災害復旧・復興推進事業                              |
| 事業主体<br>(連絡先) | 入沢災害復旧・復興協議会<br>(総務担当 三石 和久 090-1829-7443) |
| 事業区分          | (4) 安全・安心な地域づくりに関する事業                      |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 2,782,010 円 (うち支援金: 2,211,000円)            |

#### 事業内容

- 「令和元年東日本台風 佐久市入沢地区 記録誌」を作成(500冊)
- 記録誌は、令和元年東日本台風の直撃を受けた入沢地区の被災状況と住民を守るための勧告前の早期自主避難や被災直後の初動対応、住民の助け合いや早期の復旧に向けた行動など、区と消防団、区民等が一丸となって甚大な被害を乗り越えた活動の1年間をまとめた。
- 記録誌は、入沢区(全戸)、佐久市内(小学校、中学校、図書館、消防団)、国立図書館、県立図書館等へ配布又は寄贈する。



【記録誌編さん委員会の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 台風19号に関する地域の記録・気象データ、地域の被災状況・災害に対応した地域活動・復旧への取組等
- ② 記録誌として残すことによる未来へ伝承
- ③ 地域住民等の防災意識の向上

#### 事業効果

- ① 記録にまとめることにより、台風に関する事、地域の活動等が可視化できた。このことにより、地域住民が今の状況を振り返り、独自の行動力や助け合いの心など入沢の良さを再認識できた。
- ② 入沢区(全戸)、佐久市内(小学校、中学校、図書館、消防団)、国立図書館、県立図書館等へ配布・寄贈することにより未来へ伝承できる。
- ③ 上記①により、地域住民の防災に対する意識が高まった。

#### ※自己評価【A】

#### 【理由】

地区内外の反響が大きかった。  
全県で、地域のこうした記録誌をまとめるのは初めてである。

#### 今後の取り組み

- 記録誌を活用して以下のとおり取組む
  - ・ 地域住民の防災意識の向上
  - ・ 強固な防災体制の構築のための課題の洗い出し等
  - ・ 消防団員の加入促進、新入団員への教育等
  - ・ 地元小学校での防災関係授業での活用
- 区民の命を守る強固な防災体制の構築

### 令和 2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                               |
|---------------|-------------------------------|
| 事業名           | 佐久地域の枢要な地域資源「中山道」街道観光の推進事業    |
| 事業主体<br>(連絡先) | 佐久商工会議所<br>(0267-62-2520)     |
| 事業区分          | (6) ア特色ある観光地づくり               |
| 事業タイプ         | ソフト                           |
| 総事業費          | 671,000 円 (うち支援金 : 536,000 円) |

#### 事業内容

##### ① 地域住民とガイド目線で作る魅力あるオリジナル中山道マップの制作

ガイドの会の会員が実際にガイドする中で得たお客様ニーズや知見を取り入れたオリジナルの中山道マップをガイドの会の会員と地域住民によるワークショップを通じて制作した。



【制作八幡宿マップ】

##### ② モデル観光コースを掲載したHPの作成

「岩村田宿」「八幡宿」「望月宿」等佐久市内中山道各宿場のモデルコース(概ね2時間で回れるコース)を作成し、HPに掲載。ダウンロードして活用していただく。

#### 【目標・ねらい】

- ① 佐久地域の交流人口増
- ② 佐久地域観光資源の認知度 UP
- ③ 観光ガイドの養成
- ④ 地域住民の参画

#### 事業効果

##### ■オリジナル中山道マップの制作

5000部作製し、ガイド実施時や市内観光所等に設置。実際のガイド経験を活かし地域住民とガイド目線で作るマップによる中山道、佐久の魅力の掘り起こしに繋がる。

##### ■HPモデルコースの作成

HP上で公開することで佐久地域を訪れるきっかけ作りとなる。また、信州佐久中山道の魅力を存分に知ることができるHPとなり、コロナ収束後の交流人口増加に繋げる。

また、ガイドの会や東信州中山道連絡協議会や観光団体等と相互リンクするなど連携により、観光ガイドを通じた受入れ体制の強化に繋がる。

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

アフターコロナを見据え、パンフレットやホームページを拡充しておくことで将来の地域住民の観光資源への認知度アップと佐久市を訪れる歴史・文化に興味のある観光客数が増加することに繋がった

#### 今後の取り組み

今後は中山道や関連する街道などのマップやホームページを同様に制作を計画。アフターコロナを見据え、パンフレットやホームページを拡充しておくことで将来の地域住民の観光資源への認知度アップと佐久市を訪れる歴史・文化に興味のある観光客数が増加に繋げていく。